

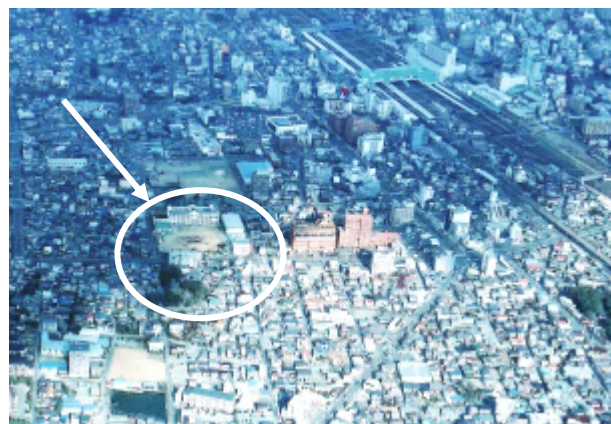
家庭教育力の強化を図ろう

～地域と連携したP T A活動を通して～

豊橋市立羽根井小学校 P T A

1 学区および学校の概要

本校は豊橋駅の西側に位置し、豊橋駅まで徒歩圏内で豊橋の市街地にもほど近い好立地にある。また、近所にはスーパーや大型店舗もあり、生活しやすい地域でもある。しかしながら校区内の高齢化が進んでおり、一時期は1000名を超える児童を抱えていたが、現在は450名ほどの児童が学ぶ規模の校区となっている。



＜豊橋駅西側の市街地にある羽根井小学校＞

2 研究のねらい

家庭教育力の強化という観点では、昨今共働きの家庭が増えている中で、両親の子どもたちに接する時間が減ってきている現状がある。そのような環境で子どもたちにどのような教育を実施し、接していけばよいかという観点で考えてみた。校区では、平成14年から始まった学校週5日制に伴い、自治会と各種団体とP T A、そして学校ボランティアで「ふれあい推進委員会」を立ち上げ、家庭で過ごす時間が増える子どもたちを、より安全に、より健やかに育てていくための活動を始めた。また、羽根井小学校区の中には、学校に直接接する我々P T Aと校区自治会に連なる各種団体(社会教育委員会・民生児童委員・更生保護女性会・子供会)がある。この各種団体と連携し、子どもたちの見守りや、子どもたちが楽しめ、興味がもてる各種イベントを実施している。そこで、私たちはこうした活動を通して、地域の方々と連携していくことで、家庭教育力の強化を図っていこうと考えた。

3 研究の方法

保護者の中には、子どもに接する時間が少なくなっていると感じている方も多いと思う。また、核家族化が進んだ現在の社会環境の中、近所に祖父母が居住している、もしくは同居している世帯も少ない状況にある。両親の子どもに接する時間が取れなくなっている社会環境の中で子どもたちを健全に育成するために、校区で行われているさまざまな活動に積極的に参加していく。校区で行われているイベントの中で地域の方々に児童を覚えてもらい、P T Aの活動に地域を巻き込むことで、地域の方々の顔を児童に覚えさせていく。実施している大きなイベントとして、土曜ひろば、夏まつり、フリーマーケット等がある。

4 研究の実践

(1) 土曜ひろば

土曜ひろばの中では、地域の方々を講師に迎え、17講座を設けている。講座の内容も様々なものを設定し、子どもの希望を取ってなるべく希望に沿った講座に割り振っている。各教室に分かれて行う「講座」と全員が参加する「全体会」が行われている。その中で、年4回設定されている炊き出し(7月:そうめん流し 9月:カレー 12月:餅つき 2月:豚汁)では、イベントごと

に各種団体の方々が担当し、P T Aもサポートとして参加している。

この炊き出しは、ガスで炊きだすのではなく、かまどを使っている。かまどでの炊き出しについては、児童の父親にも参加を呼びかけている。父親の参加が少ないP T A活動の中で、父親が活躍する貴重な機会となっている。



(2) 羽根井夏まつり

夏まつりでは、小学校の金管バンド部の演奏や土曜ひろばの太鼓演奏で始まり、先述の団体に加え、校区内の消防団も参加し、盆踊りや太鼓の演奏などを実施している。また、祭りの最後を飾るのは花火で、校区内の花火の団体による三河伝統の手筒花火や乱玉が打ち上げられる。P T A役員もだんごやうどんの夜店を担当し、地域の方々との交流の場となっている。

(3) フリーマーケット

フリーマーケットは、買い物体験の少ない子どもたちにも買い物体験をさせたいという願いから始まった。お店を出して売る側とお客として買う側としてのコミュニケーションを学ぶねらいもある。P T A役員もパンなどを販売したり、遊びコーナーを作ったりしている。地域の方々にも広く出店を募集し、児童だけでなく地域住民の方々にも楽しんでもらっているイベントである。保護者が出店しているブースでは、子どもたちも手伝っており、親子で校区民とのふれあいを深めることもできる。



フリーマーケットでのパンなどの販売

5 研究の考察

これまで行われてきた活動に積極的に参加することで、学校では学ぶことができない大切なことを無理なく親子で地域の方々から学ぶことができる。その中には親でも教えることができないこと、知らないこともある。このように地域の方々との関係を密接に持つことは、この地域で生活している人の顔を覚えることにつながり、地域外から来る不審者に対する対策にもなっている。実際、豊橋駅に隣接する人通りの多い地域の割に不審者情報は少ないと感じる。地域の方々の顔を覚える→きちんと挨拶できる→知らない人にはついていかない→不審者が寄り付かない、このような構図があるように感じる。

6 成果と今後の課題

両親と接する時間が少なくなっている現代社会の中であっても、「子どもは親の背中を見て育つ」というように、親の背中を見ながら子どもは成長していく。この校区にある地域・学校・家庭が連携して行っている活動に積極的に関わり、地域の方々と触れ合う機会を多くもつことにより、子どもたちだけでなく保護者も家庭教育の在り方を学ぶよい機会となり、地域ぐるみで子どもを育てていこうという意識が共有できている。

今後の課題としては、まだまだ少ないP T A活動への父親の参加率を上げていかなければならない。父親が積極的に参加するP T A活動というものを模索しつつ進めていきたいと考えている。